



「牛丼一筋300年」——。生誕29（ニク）周年を迎えたキン肉マンも心配顔。 ©ゆでたまご

MONEY SCOPE 2

吉野家の苦策! フルタイム牛丼 再開の陰に消えた 伝統のネギダク

中国産玉ネギの
輸入量が減少。
次は紅シヨウガ!?

吉野家の牛丼に「異変」が起きている。4月某日の店頭。「大盛りと玉子ね」「こっちは並盛り、ネギダクで」その瞬間、店員の笑顔が消えた。「すみません。上からの指示で、ネギダクのご注文はお受けできないんです」ネギダクとは牛丼の玉ネギを多めに盛ってもらうこと。ツユが多めなのはツユダクだ。いずれも正規メニューではないが、牛丼愛好家にとっては日常的な注文方法である。そのネギダクが消えた。吉野家を展開する吉野家ホールディングス（東証1部・

マイナス91・1%）と大幅な減益となった。

会計士の植松亮さんは「税効果の戻し（将来取り戻せる可能性のある税金の額を利益に計上すること）がなければ赤字だった。最終損益段階で黒字を維持しようとする強い意志を感じる」と指摘する。「消えたネギダク」と業績の停滞には、関連性があるのだろうか。HPを見ると、牛丼に使用する玉ネギの産地は「中国・国産・その他」となっている。表記は使用量の多い順なので、最も依存度が高いのは中国産というわけだ。

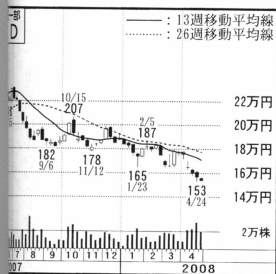
この中国産玉ネギだが、「段ボール肉マンや毒入りギョウザの影響もあり、輸入量の減少傾向が鮮明」（農林水産

照井希子●取材・文 矢木隆一●撮影

たのに対し、3月は8347トンにとどまっている。「玉ネギを切り詰めているとしたかと思えません」と語るのは、週に1回は牛丼を食べる、経済評論家の森永卓郎さん。「決算会見で『商品の値上げはしない』と宣言した吉野家の心意気はうれしいんですが……。今は取り放題の紅シヨウガも心配だなあ」（森永さん）。牛丼ファンの心配は尽きないが、今後の株価も気になる。

3月17日、BSE発生から約4年ぶりとなる「24時間牛丼販売の再開」を発表。すると翌18日、前日終値16万8000円から17万8000円まで急騰した。「の再開」は有効な材料なのだ。ネギダクが復活すれば、再び株価は噴き上がるか? ファンならずとも注視したいところだ。

4月末時点では、長期ボックストレンドから下落トレンドに転換したようにも見える。反転して17万円を上抜かれるかが焦点。半年持てる投資家は仕込みどきか。



なし

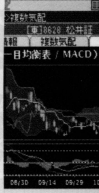
をご確認ください

1億円超

05,000円(

無

は、自動更新
な投資情報
ます。



求される場合
強くお勧め
す。ご利用の

ハ。
法人金融

30円(税込)
とします。

リーダー
(す)

matsumi.

4910